



次の自信に…

園長 渡邊 舞

「お箸練習してるんだ！ほら、すごいでしょ」「前は嫌いだったけど、食べられるようになったの」…いろいろな場面で、自分がかんばっていること、できるようになったことについてのお話が子どもたちから聴こえてきます。その表情からは、自信とさらに前に進もうとする気持ちが伝わってきます。2024年もあとわずかとなりました。お子さんの昨年の今ごろの様子を思い起こしてみてください。きっと様々な成長があったことと思います。毎日一緒にいると当たり前のように思う姿にも実は大きな成長を遂げたことがたくさんあるはずですよ。

12月6日の『表現遊びの日』では保護者のみなさまからたくさんの拍手をいただき、ありがとうございました。年中さんと年長さんはほどよい緊張感を感じながら、とても楽しそうに表現する姿がありました。実は最後のカーテンコールのところで、前日とは違う流れになっていたこと、お分かりになりましたか？「素敵な音」を探す冒険の旅からお城に戻った2人がコンサートをした後、前日までは「またコンサートをしようね」と一度舞台袖（幕）に戻り、そこで「このお話はこれでおしまい」と幕から顔を出した後、再び登場し、自分の役の紹介、年少さんたちの紹介という流れになっていました。ところが、本番では、2人は最後に幕の方に戻らず、お話が終わってすぐに年少さんたちを呼んだのでした。私たちは子どもたちのことを信じ、見守りました。すると、慌てることなく、前に出ていき、その後、全園児でアンコールまでつなげていました。途中で前日までとは違うことに一瞬「あっ」と気付いたようでしたが、戸惑うことなく自分たちで最後までやりきった姿に頼もしさを感じました。当日まで子どもたちの主体性を大切にしながら進めてきた劇遊び。日々経験していることの積み重ねによって、臨機応変に対応したり、自分たちで考えて物事を進めていく力が身に付いていることを感じます。そう



した力や成長は数値化することはできません。しかし、子どもたちにとって、将来に続く大事な力となることは間違いありません。

表現遊びの日、保護者のみなさんが帰られた後、みんなでジュースで乾杯しました。子どもたち一人一人のがんばりを賞賛し、みんなで「楽しかったね」と語らう時間にしました。この時、どの子どももとても満足そうな、いい表情を浮かべ、自信に満ち溢れていたのが印象的でした。

冒頭の自分がかんばっていることやできるようになったことを言葉にする姿は、さて、どこから来るのでしょうか。自分がかんばっていること、できるようになったことを自覚し、うれしいと感じているからだだと思います。でも自分でなかなか自覚することはできません。きっとその背景に大好きな人から励ましてもらい、認められ、うれしさから自信となったからだと思います。冬休みはぜひ、できるようになったことだけでなく、本人もあまり意識していない姿、ありのままの姿にこそ注目して、お子さんと一緒に成長を語らう時間をつくってください。大好きな人から認められることは、次の自信につながる、何よりのパワーの素となります。